

I. 予算のポイント

予算規模

(単位: 億円、%)

○一般会計の平成26年度予算額は、市政史上最大となる8,847億5千万円で、対前年度比3.8%の増

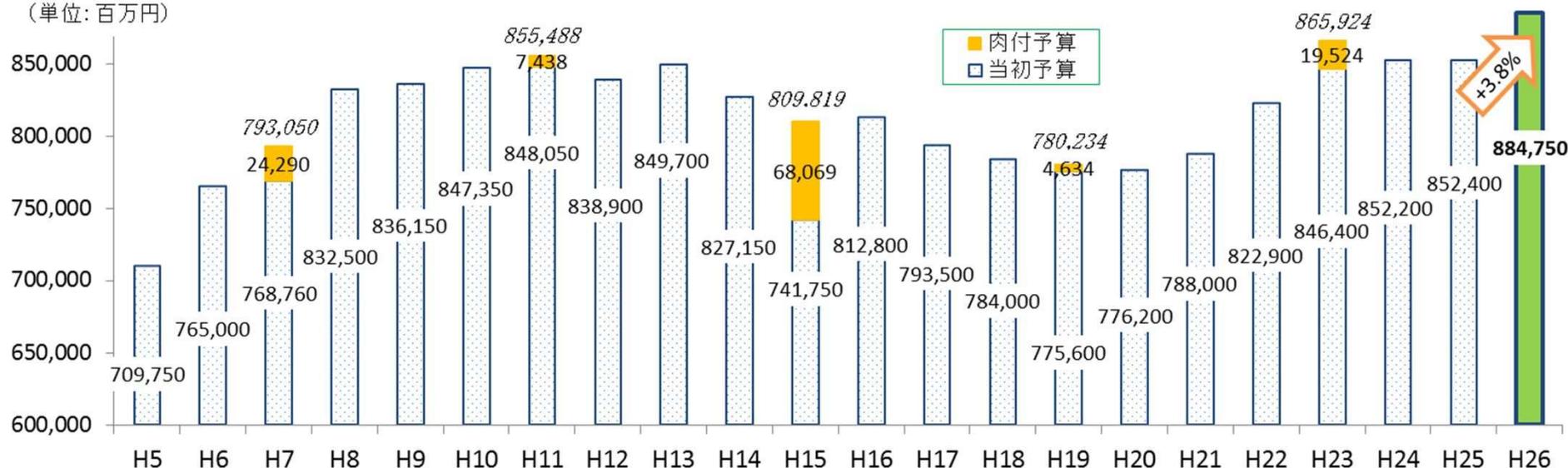
○平成26年度予算は、25年度予算と同様に、前年度補正予算(同年1定補正)における地域経済対策と一体的に編成

○1定補正を含む実質的な比較では、一般会計で3.3%の増

会 計	26年度予算額	25年度予算額	比較増減	増減率
一 般 会 計	8,848 < 8,972 >	8,524 < 8,686 >	324 < 286 >	3.8 < 3.3 >
特 別 会 計	3,607	3,518	89	2.5
企 業 会 計	2,908 < 2,943 >	2,483 < 2,533 >	426 < 410 >	17.1 < 16.2 >
総 計	15,363 < 15,522 >	14,525 < 14,737 >	838 < 785 >	5.8 < 5.3 >

一般会計予算規模の推移

(単位: 百万円)



< >内は、1定補正(臨時福祉給付金を除く地域経済対策分)を含む額である。
企業会計の26年度予算額は、公営企業会計制度の変更に伴う変動額を含む。

新たな創成期スタートダッシュ予算

予算編成の考え方

- さっぽろ元気ビジョン第3ステージの実現に向け、「第3次札幌新まちづくり計画」の最終年次として、計画目標の達成に向けた取組を着実に実施するとともに、「行財政改革推進プラン」に掲げる取組などこれまで以上に行革努力を行う。
- 「札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>」に掲げる10年後の目指すべき姿の実現に向けて力強いスタートダッシュを切るための取組を積極的に盛り込む。
- 民間活動を誘発するきっかけづくりとしての役割を意識した事業の構築に努める。
- 予算編成の透明性を高めるため、引き続き子どもを含めた多くの市民に対して、予算編成プロセスを分かりやすく積極的に発信する。

平成26年度予算のポイント

- 保育所待機児童の解消に向けた取組の加速化
- 持続可能な札幌型集約連携都市への再構築に向けた取組など、建設事業費の大幅な増加
- 札幌国際芸術祭及びその関連事業の積極的な展開

札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>

戦略的に取り組むべき
3つのテーマ

暮らし・コミュニティ

つながりや支え合い
による安心して暮ら
せる地域を目指す

保育所待機児童ゼロを目指して

⇒保育所定員1,180人分を整備するとともに、多様な保育サービスを大幅に拡充

- ◎市立幼稚園預かり保育の実施(13ページ)
- ◎定員20人未満の小規模保育の実施(14ページ)
- ◎保育ニーズコーディネート事業の通年化(14ページ)
- ◎仮称南区保育・子育て支援センター整備(10ページ)
- ◎保育所定員1,180人増(12ページ)
- ◎幼稚園保育室及びさっぽろ保育ルーム拡充(13ページ)

地域保健福祉活動の先行地区を3地区から10地区に拡大

⇒地区担当保健師の配置など、地域と行政がより一層連携し、きめ細かな福祉施策を展開

- ◎福祉のまち推進センター事業の拡充(22ページ)
- ◎先行地区に地区担当保健師を増員配置(22ページ)
- ◎先行地区における障がい者相談体制の充実(22ページ)
- ◎5歳児健康相談事業の実施(9ページ)
- ◎重症心身障がい児者が利用できる施設の拡充(26ページ)

◎;新規
○;レベルアップ

第3次札幌新まちづくり計画

(8~63ページ参照)

最終年次を迎える「3次新まち」事業に、新たな視点と価値観による取組を加えて、「ビジョン」が目指す都市像の実現を戦略的に推進

産業・活力

北海道経済全体の活性化を見据えた足腰の強い経済基盤の確立を目指す

「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」～道内連携の推進

⇒道内の魅力資源と札幌の都市機能の相互利用を図る取組を強化(29ページ)

食の海外展開やコンテンツ関連事業を戦略的に推進

⇒国際経済戦略室を新設し、海外に目を向けた経済施策を強力に推進

○北海道の食のブランド力向上を促進(32ページ)

○海外映像関係者との人材ネットワークを構築(33ページ)

札幌国際芸術祭及びその関連事業を全庁的に展開

⇒「創造都市さっぽろ」の象徴的な事業である国際芸術祭が7月19日に開幕

◎資料館リノベーション推進事業(37ページ)

・国際芸術祭の開催(37ページ)

◎円山動物園で壁面アート等を実施(38ページ)

○市民参加による1万本の植樹イベントの実施(38ページ)

札幌の未来に向けて、都市の活性化に資する建設事業費を大幅に増加

⇒1定補正を含む全会計の建設事業費は29.7%増の1,701億円(6ページ)

拠点のまちづくりなど、持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築に向けた取組に力点

低炭素社会 ・エネルギー転換

低炭素社会と脱原発依存社会の実現を目指す

市民交流複合施設等、都心や駅周辺への都市機能集積を促進

⇒環境負荷の少ない路面電車のループ化を進めるとともに、拠点のまちづくりを推進

◎民間活力による拠点のまちづくりの検討(41ページ)

・路面電車ループ化工事の本格化(42ページ)

◎篠路駅周辺地区のまちづくりの推進(45ページ)

・仮称)市民交流複合施設整備(44ページ)

脱原発依存社会の実現に向けて

⇒市民・民間と連携した次世代エネルギーシステムの普及拡大の取組を一層推進

◎埋立跡地への太陽光発電設備設置に向けた調査(50ページ)

・札幌にふさわしいエネルギー施策の検討(48ページ)

◎まちづくりセンターに蓄電設備を設置(51ページ)

○省エネ技術の標準化に向けた取組の強化(53ページ)

◎省エネ型冷蔵庫買替キャンペーン事業(52ページ)

札幌市行財政改革推進プラン

(67、69ページ参照)

行財政改革推進プランに沿った事務事業の見直しや財産の有効活用等によって198億円を生み出し、上記のような取組の積極的な事業化等で生じた財源不足に対応

予算編成プロセスの公開の一層の充実

(85ページ参照)

○中学校への出前講座の実施規模を拡大

○高校生への体験学習(予算編成シミュレーション)を実施

○11月26日から12月25日まで予算要求に対する意見を募集

Ⅱ. 予算の姿

一般会計予算の概要



26年1定補正予算の概要(地域経済対策分)

補正予算のポイント

国の好循環実現のための経済対策を積極的に活用するとともに、独自の財源措置を講じることにより、地域経済の活性化に資する防災力強化などの事業を切れ目なく実施するため、25年度補正予算(26年1定)に積極的に計上

補正予算の内容

補正額* 23,627百万円(一般会計20,176百万円、企業会計3,451百万円)

◇参考 前年度(25年1定) 21,227百万円(一般会計16,228百万円、企業会計4,999百万円)

※臨時福祉給付金を除いた場合 15,910百万円(一般会計12,459百万円、企業会計3,451百万円)

【防災力強化】 6,539百万円

【一般会計】

- 空港整備事業費負担 <<29百万円>>
新千歳空港耐震補強
- 土木センター維持管理 <<103百万円>>
非常用発電の設置
- 道路防災対策事業 <<154百万円>>
アンダーパスの冠水警報装置等
- 橋りょう長寿命化 <<390百万円>>
- 学校耐震補強 <<3,244百万円>>
小学校32校、中学校11校
- ほか2事業 474百万円

【企業会計】

- 高速電車事業<<76百万円>>
駅耐震補強工事実施設計
- 水道事業 <<2,069百万円>>
配水池耐震化等



【社会基盤整備】 5,257百万円

【一般会計】

- 道路・街路関連 <<2,002百万円>>
舗装等整備、道路新設改良
- 公園・河川関連 <<1,148百万円>>
公園造成・再整備、河川整備
- 再開発補助や路面電車ループ化による
民間投資の促進 <<766百万円>>
- 街路灯整備 <<35百万円>>
トンネルのLED照明整備

【企業会計】

- 軌道事業 <<556百万円>>
路面電車延伸推進
- 下水道事業 <<750百万円>>
老朽管改築等

【債務負担行為(ゼロ市債)】

【一般会計】

- 舗装等整備<<500百万円>>
- 道路新設改良<<625百万円>>

【企業会計】

- 下水道事業(管路整備) <<800百万円>>

【市有施設改修等】 4,114百万円

【一般会計】

- 学校施設関連 <<2,136百万円>>
 - ・改修等整備 1,408百万円
屋上防水改修など
 - ・太陽光パネル設置 674百万円
 - ・学校新築 20百万円
教室のLED照明整備
 - ・学校用地造成 34百万円
学校用地の補修
- 市有施設保全等 <<1,978百万円>>
 - ・保全推進 325百万円
 - ・破碎工場復旧整備 493百万円
 - ・厚別公園競技場改修 765百万円
 - ・市営住宅改修 322百万円
 - ほか 2事業 73百万円

臨時福祉給付金 7,717百万円

【一般会計】

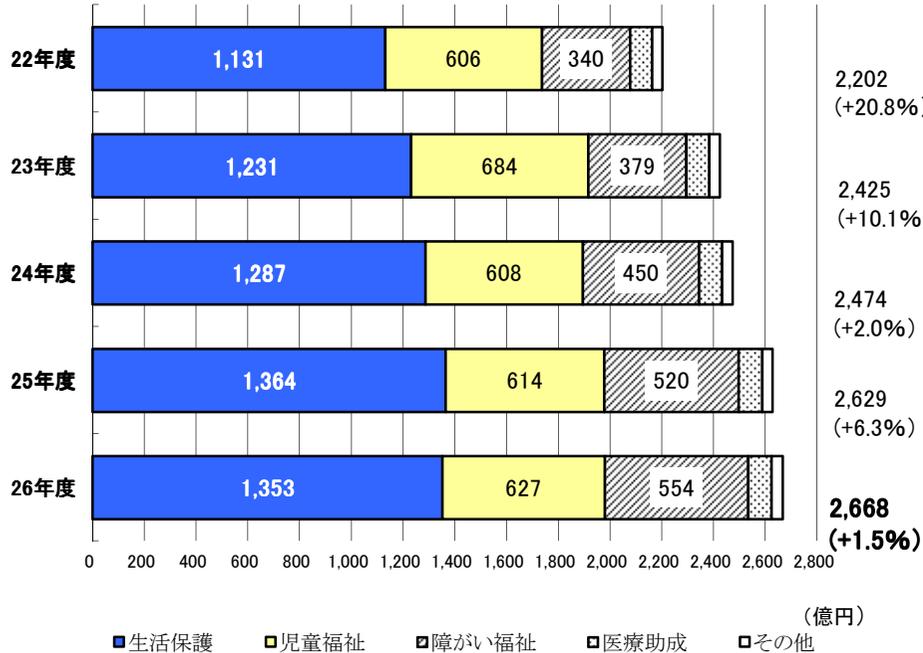
- 消費税増税に際し、低所得者及び子育て世帯への影響緩和のための臨時的給付措置

扶助費・建設費

扶助費

○扶助費は引き続き増加傾向

- ・生活保護費の減（対前年度比▲0.8%）
対予算比では減を見込むものの、対決算見込比では1.8%の増
- ・児童福祉費の増（対前年度比+2.2%）
保育所入所児童数の増加による増
- ・障がい福祉費の増（対前年度比+6.7%）
就労系サービスの利用者の増加等による増



建設費

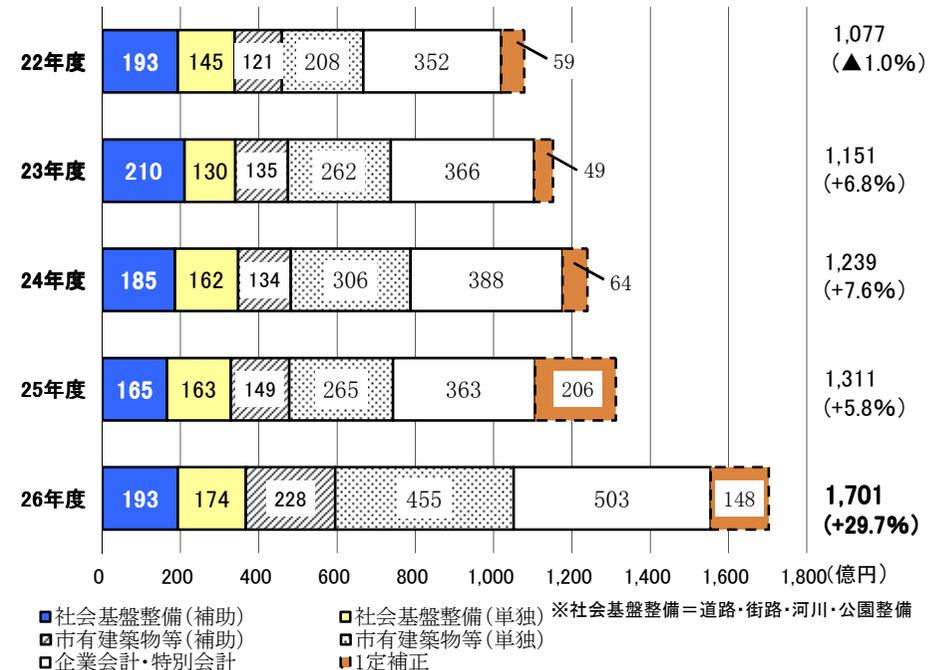
(全会計)

○一般会計の建設費は10年ぶりの1,000億円台

26年度は、市民交流複合施設の整備を含め、拠点のまちづくりなど、持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築に向けた取組に力点を置き編成。

また、26年第1回定例会市議会で、学校の耐震補強や道路・街路の整備など、全会計で148億円の25年度予算の補正を行うことにより、26年度予算と合わせて、対前年度比+29.7%となる1,701億円の事業費を計上。

※各年度の合計は、当初予算に1定補正を含む額である



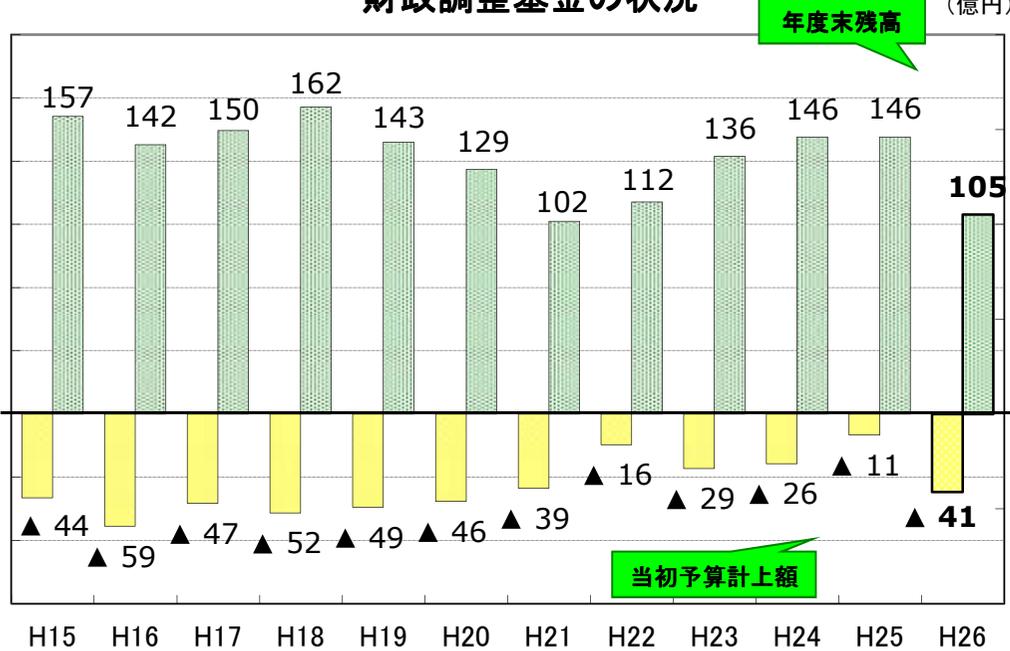
財政調整基金の状況・市債残高

財政調整基金

○財政調整基金を41億円取崩し

財源不足に対応するため、財政調整基金から繰入を計上
取崩額が40億円を超えるのは6年ぶり
(26年度末残高見込みは105億円)

財政調整基金の状況



※24年度までの年度末残高は決算ベース、25年度末残高は決算見込みベース

市債

○市全体の市債残高は減少

臨時財政対策債の影響により、一般会計の市債残高は増加が見込まれるものの、市全体の市債残高は減少

(億円)

